

第5回江戸街道プロジェクトアドバイザー会議

議事要旨

日時：令和6年12月3日（火）15:30～17:30

場所：オンライン

出席者（敬称略）：

公益社団法人日本観光振興協会総合研究所 顧問 丁野 朗

株式会社リクルート 地域創造部 部長 高橋 佑司

株式会社三菱総合研究所 主席研究員 宮崎 俊哉

跡見学園女子大学 兼任講師 山崎 まゆみ

株式会社ジャーマン・インターナショナル 代表取締役社長 ルース・マリー・ジャーマン

足立成和信用金庫 理事長 土屋 武司

関東運輸局 局長 藤田 礼子

関東運輸局観光部 部長 近藤 光則

議題：

- (1) プロジェクトの取組状況について
- (2) プロジェクトの今後の方向性について

議事要旨：

(1) プロジェクトの取組状況について

○江戸街道関連案件の支援へのご意見

- ・本年度採択された事業に関して継続するサポートを求めたい。次にどう伸ばしていくか検討すること。
- ・交流会は良い機会だった。参加者へのフォローアップを行い、継続的に関わってもらいたい。
- ・日帰り完結型の事業が多く、宿泊につなげられていないことが課題。
- ・交流の場を作れば、人的ネットワークが繋がり、国内外問わずSNSなどで広がる。プラットフォームに限らず、ネットワークづくりを続けていけば今後の方向性で掲げたKGIの達成にもつながる。
- ・どれだけ継続してビジネスにしていけるかが重要。運輸局がコンシェルジュ的な役割で入り、地域とのつなぎ役を担うとよい。
- ・地域は採択まで盛り上がるが、採択後の熱量は下がることもあり、採択後のフォローアップも重要。
- ・熱量がある人同士で話をすれば、熱量が3倍にも4倍にも膨らむ。そういった場をいかに作るか。

○分散型宿泊取組推進支援事業へのご意見

- ・宿泊と併せて移動手段も非常に重要なテーマ。
- ・地域のレベルに応じて事業を軌道修正した点で評価したい。現場のペースに合わせて進めることが重要。

○GREEN×EXPO2027を契機とした広域観光の促進に向けた方針（案）へのご意見

- ・ GREEN×EXPO とどんな関係性を作っていくか、中身の議論をしっかりと行うこと。しっかりとテーマとして位置付けた取組として深掘りすることで、具体的な事業展開へつなげられる。
- ・ 運輸局が主体的に動くこと。江戸街道プロジェクトとしても地域に訴えかける姿勢で進めるとよい。
- ・ 江戸街道プロジェクトとして GREEN×EXPO への誘客を協力し、GREEN×EXPO では、会場で江戸街道のグリーンコンテンツを体験できるようにするなど、相互誘客を図りたい。

(2)プロジェクトの今後の方向性へのご意見

- ・ 現段階では大きな方向性として理解した。今後はこれまでの活動を踏まえた上で、来年度以降どのような事業が必要なのか、事業実施方針を具体化していくこと。
- ・ 地域の自走化を見据えて先立つ仕掛けを作っていく取組が望まれる。
- ・ 時期・方法を整理し、どのように KGI を達成していくのか道筋を作ること。
- ・ 数値の達成だけではなく、進め方にも工夫を。運輸局が主体的になる部分と、他と連携することの整理も含めて考えてほしい。
- ・ 管内の各地域・各事業者・各団体に江戸街道プロジェクトへの参加を積極的に呼びかけること。
- ・ 点から線、線から面へと事業の発信力を高めるためには、事業成果を実施地域だけにとどめず、成功体験や課題なども共有していくこと。
- ・ インバウンド事業はイベント依存になっていることが課題。イベントはあくまでもプラスアルファの取組。継続的に外国人にとっての非日常を提供できることを目指す視点が重要。
- ・ 広域周遊事業と江戸街道を繋ぐ整理が欲しい。県単位 DMO が広域連携 DMO と共に江戸街道関連の事業に出てきてもらえるならば、それは1つの方向性である。
- ・ 地域 DMO を事業でつないでいく役割を果たせる存在がない。県単位 DMO と広域連携 DMO との話も絡めながら考える必要がある。地域のランドオペレーター同士をつなげていくような戦略を組み立ててはどうか。県単位 DMO にも協力を仰ぐとよい。
- ・ 江戸街道プロジェクトをビジネスに繋げるためには、消費者へとつなげないといけない。各地域同士がお互いを知るため、ショート動画の制作や一定のクオリティの画像を集約してはどうか。消費者側への PR にも使える。
- ・ 江戸街道プロジェクトに参画した団体が参加できるパブリックリレーションを提供してはどうか。
- ・ 今年度の機運が冷めないうちにしっかりと整理・構築をし、次年度に備えること。

以上